

地域包括ケアシステムの形成

【概 要】

今日の中山間地域においては、公共交通や病院・商店等の撤退で生活基盤の弱体化が進み、それがさらに過疎化・高齢化を進めてしまう悪循環が見られるが、福祉・医療の側面でも、独居高齢者や認知症高齢者をはじめとする要援護者が増加する一方で、家族や地域コミュニティの相互扶助力は衰退し、さらに要援護者の在宅生活を支えるケアサービスの整備も十分でないために、住み慣れた自宅や地域での暮らしを断念して、施設入所となるケースが増加している。また、中心市街地でも、生活基盤のあり方こそ違おうが急速に独居高齢者等の要援護が増加する中で、家族や地域の相互扶助力の衰退によって、社会的孤立や不安定な暮らしを余儀なくされる住民が増加するという矛盾は同様である。

こうした現状をふまえて、住み慣れた地域で最期まで暮らせる地域づくりを推進するには、保健・医療・福祉の専門機関や事業所ならびに地域住民のネットワーク化を進めて、日常的な見守りを含めたきめ細かな地域包括ケアシステムを形成することが不可欠である。また、特に中山間地域では、不足がちな地域の医療・福祉サービス資源を持続可能なものにするために、社会的入院や施設依存を克服するための効率的な在宅ケアサービスの開発も必要である。

そこで本プロジェクトでは、とりわけ鳥取県における地域包括ケアシステムの形成を目指して、以下の4つのポイントに着目した研究および政策提言を行う。

- ① 保健・医療・福祉の専門家による多職種協働しくみづくり
 - ② 住民主体の支えあい活動による見守り体制づくり
 - ③ フォーマル・インフォーマルの総合的なサポートマネジメントの仕組みづくり
- 住み慣れた地域での看取りを可能にする新しいケアサービスの創出

【キーワード】 地域包括ケアシステム、地域福祉、地域医療、地域保健、多職種協働

【参加メンバー】 地域学部地域政策学科 准教授 竹川 俊夫
(アンケート調査の企画・実施と分析、報告書作成、講演会の企画・実施等、プロジェクト全般の運営)
医学部保健学科地域・精神看護学講座 教授 松浦 治代
(アンケート調査の企画・実施と分析、報告書作成、専門職へのスーパーバイズ)
・その他学外からの参加メンバー多数

【計 画】 <初年度>

- 1) 官業学が連携した研究体制づくり〈鳥取地域包括ケア研究会(仮称)の創設〉
- 2) 上記①について、多職種協働の現状と課題を明らかにする調査活動(鳥取県委託研究)
- 3) 上記②・③について、兵庫県社協荻田氏を招いて講演会を開催
- 4) 上記④について、ホームホスピス宮崎の市原美穂氏を招いて講演会を開催
- 5) 上記④について、「コミュニティ・ホーム」の設立・活動支援

<2年目>

- 1) 上記①について、多職種協働を促進するための方策の検討

- 2) 上記③について、モデル事業の検証と促進のための方策の検討
- 3) 上記②について、全国の好事例に関する情報収集と講師を招いた研究会の継続
- 4) 上記④について、「コミュニティ・ホーム」の設立・活動支援

<3年目>

- 1) コミュニティ・ホームの設置・運営に関する地域への支援と効果測定
- 2) 全国の好事例に関する情報収集と講師を招いた研究会の継続
- 3) モデル事業から得られた成果と課題のとりまとめ
- 4) 日本地域福祉学会等の学会における研究成果の発表
- 5) 研究成果の総括と公表（冊子作成）

【地域連携先】 県長寿社会課、鳥取県社協、南部町、鳥取市、鳥取市社協